鹿児島大学　工学部　機械工学科　１年　中山　友希　2513210497

与論をどう活性化したらよいのか

私は小学校６年生から中学校３年生までを与論で過ごしました。父の実家も与論にあるということもあり与論のことを考えることは人一倍強い思いがあります。今回与論を訪れたことだけでなく与論に４年間いたときに感じたことも踏まえて問題を考えたいと思います。改善、考えるべきだと思ったことは、観光、農業、漁業の３つです。

まずは観光。昭和５０年代を境に観光客は減少しています。沖縄が日本に返還されるまでは与論が最南端だということもあり多くの観光客がきて、茶花だけでなく様々なところにお店があり活気があったとよく父から聞いておりました。そして今考えるべきことは今後どのようにして観光客を増やすか。講義のなかで、徳之島、沖永良部、与論をひとつのまとまりとして考えるという案でした。とてもいい案だと思いました。徳之島、沖永良部に来た観光客を与論に呼び込む。今より多くの観光客が来られるとおもいます。そしてもしその案がうまくいかなかった場合、差別化を図るべきだと思います。あまり島について詳しくない人からしたら奄美諸島の島の特性などわからないと思います。奄美ほどの大自然、徳之島の闘牛、沖永良部の豊かな花は与論にはありません。でも他の島にはない海の綺麗さや、１つの島で１つの団体をもてなすなどもっと誇るべきものがたくさんあります。それらをもっと推すべきだと思います。今までのように百合ヶ浜を一番にアピールすることはいいと思います。そして２つ目におもてなしのアピールをしたらよいと思います。東京オリンピックの招致で流行になったおもてなし精神。海の綺麗さとおもてなし精神ではどこにも負けない与論なら観光客を取り戻すことはできると思います。

２つ目は農業。今の与論はサトウキビが多くの農家で栽培されています。しかし島の少子高齢化も進み、重くて長いサトウキビを島の方々が、倒して、運ぶことはとても大変であると思います。中学校で毎日部活動をして体力に自信のあった私も何時間もサトウキビを運んだり倒したりすることは大変でした。特に今は高齢の方が多く栽培していることは１つの問題だと思いました。さらに国が１トンあたり 16000 円もの補助があってなんとか成り立っています。もし補助がなくなれば収入は 80%も減ってしまいます。そのことも踏まえて、高齢者にはハーベスターをほとんど無償で貸し出す。もしくはサトウキビの他に高齢者でも簡単に栽培ができ収入にもなるインゲンの栽培に力を入れるべきだとおもいます。ハーベスターを借りるにもお金がかかり収入が減ります。しかし全てを自らの力で栽培することは大変で困難でもあります。なので、栽培す

る人々にハーベスターを安く貸し出せば喜ばれると思います。それに加えて他の作物も栽培するように推し進める。インゲンは収入もありサトウキビに比べると栽培が簡単であると思われます。島の名物でもあるサトウキビがすべて他の作物に代わってしまうことはとても悲しいことなのでバランスをとりながらそれぞれの政策を進めていかないといけません。とても難しいことではあると思います。どのくらいの補助金を出すのか。高齢者とは何歳からなのか。与論町の収入に見合う金額なのか。など考えなければならいことは多いと思いますが１つの案として考えてもよいことだと思います。

３つめは漁業。島民の多くが漁師として働いています。台風がなく漁に出られるときは収入もありよいと思うのですが、今回講義で与論に行った際は 20 日近く魚がまともに揚がっていないとのことでした。この期間漁師の収入は少なくなっていると思います。漁にいけない日でも漁師が収入を得られるような仕組みを作らなければならないと思います。海水がきれいであることから養殖を進めていけばよいと思います。与論でしか養殖できないような、養殖が困難でなく、収入になる生物を選ぶことが大切だと思います。もし養殖が成功したら新しい雇用を生み出し、漁師の収入が安定し、新しい観光の名物にもなると思います。しかし養殖が与論の海の景観を壊さないような場所、道具でないといけません。海がすべて養殖の道具で覆われていたらよくありません。考えることは多いと思いますが養殖も１つの案として良いと思います。

あまり行政や与論町の経済に対して詳しくない私が書いたことは不可能でそんな簡単に実現できるようなことではないかもしれません。しかし長い目で与論のことを考えた場合に少しは考えるべき問題だとおもいます。将来、島民が島に帰りたいと思うような素晴らしい島であり続けてほしいと思います。そのような島にするためにも多くのことを学び、問題を解決できるような力をつけたいと思います。